



グリーン社会と

ソーシャル・イノベーション

復興10年を超えて

東日本大震災から10年を経てエネルギー政策は大きく自然エネルギーへとシフトしようとしています。グリーン社会を市民がどうデザインしていくのか、そして目指す社会をどう実現していくのでしょうか。時代の変化をリードする東北からのゲストを迎え、これからの10年を共に考えたいと思います。

2021

12.18 | 土 | 13:30 ▶ 15:30 (開場:13時)

同志社大学今出川キャンパス良心館地下2番教室 | 会場100名 / Zoom150名

※新型コロナウイルスの感染状況によってはZoomのみで実施する可能性があります、その際は別途お知らせします。

基調講演

半谷 栄寿氏

一般社団法人あすびと福島代表理事



東京電力の執行役員時代は新規事業の責任者として、自然エネルギーの事業やJヴィレッジの設立に関与。

3.11以後、原子力事故への責任と出身地福島の復興への想いから次世代育成を志し邁進。



パネリスト

石田 秀輝氏

合同会社地球村研究室代表社員、
京都大学特任教授、東北大学名誉教授



自然のすごさを賢く活かす新しいものづくり『ネイチャー・テクノロジー』を提唱し実装。心豊かな暮らし方のライフスタイル研究・実践の第一人者。

早瀬 昇氏

社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長、
同志社大学客員教授

阪神淡路大震災時、日本初の災害ボランティアセンターを創設。その後の全国の災害ボランティアセンターの運営に影響を与える。

進行 **服部 篤子**

同志社大学政策学部教授
人文科学研究所兼任研究員

グリーン社会とソーシャル・イノベーションをテーマに研究会を企画実施。市民が担うグリーン社会のモデルと普及を探る。

申込方法

申込フォーム

または

往復はがき

<https://jinbun.doshisha.ac.jp/event/form/18>



住所・氏名・電話番号・Zoomで受講希望の場合はメールアドレスを明記
※お申し込みの際の個人情報は、申込後の問合せや連絡、統計資料作成のために使用します。

参加無料
要申込

締切
12月16日(木)

主催 / お申込み

同志社大学人文科学研究所

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel 075-251-3940 Email ji-jimbun@mail.doshisha.ac.jp

協力

日本ソーシャル・イノベーション学会

グリーン社会と ソーシャル・イノベーション 復興10年を超えて

🌱 開催趣旨

2050年にむけたカーボンニュートラルの宣言は政策や産業界に大きな転機をもたらしました。これまで以上に自然エネルギーを活用する時代がくることでしょうか。我々一人一人はどのような未来を目指してエネルギー政策の転換に参加し、寄与することができるのでしょうか。他方、2021年、東日本大震災から10年が経ちました。大震災からの学びはどう生かされているのでしょうか。自然の恵みと畏敬を改めて考え持続可能な社会を描いていく機会が必要ではないかと考えています。

本講演会では、過去の世代から受け継いできたものを再認識し、未来を築く若者はこれからどう社会をデザインしていくのか、そして目指す社会をどう実現していくのかを考える多世代共創の実現を目指して開催します。

- 持続可能なグリーン社会には市民主体のイノベーションが必要ではないだろうか？
- 最初の一步は何から始まるのだろうか？
- ローカルからイノベーションは起こせるだろうか？

講演会の構成は、基調講演（30分）とパネルディスカッション（60分）、そして意見交換からなります。基調講演者は、あすびと福島の半谷栄寿さんです。東電の役員時代は新規事業開発の責任者でした。福島県沿岸部の南相馬市出身でもある半谷さんは、原子力事故の加害者であり母親は被害者であったといい、これまでの10年、再生エネルギー普及の取組と次世代の育成に注力してきました。

また、パネリストには、自然の力を生かした社会づくりとして「ネイチャーテクノロジー」を提唱し多様な企業に影響を及ぼして実装してきた石田秀輝氏を迎え、次の10年に向けて議論を進めていきたいと思いをします。

🌱 多世代共創

多世代共創とは、「子どもから高齢者まで今を生きる私たちが過去世代から何を学び、未来世代に向けてどのような新しい価値を共に創り、つないでいくのか？」といった視点から考える方法論です。JST社会技術研究開発センターの「多世代共創」研究開発領域より生まれた研究成果です。

*当日ご参加のご希望者に「多世代共創ハンドブック」をお配りします。



🌱 一般社団法人あすびと福島 概要 《ホームページ》 <http://asubito.or.jp/>

南相馬市の「あすびとパーク」を拠点とする一般社団法人あすびと福島は、福島の復興・創生を担う次世代人材の育成にあたって、「憧れの連鎖」という独自のプロセスを展開しようと志しています。「福島復興の最前線・南相馬で、未来を担う社会起業家精神を育成する。福島県内の若い人材が自らの力で事業を起こし復興・創生に貢献していくようになると、後輩たちがその姿に憧れ、自分も社会的事業を起こせるようになると挑戦し、人材が輩出される。」この「憧れの連鎖」によって福島は復興・創生し、地元に対する新たな誇りが生まれます。この取り組みは被災地発の地方創生モデルへの挑戦でもあり、あすびと福島はこの循環を生み出すために前進を続けています。



登壇者プロフィール

基調講演

●半谷 栄寿（はんがい えいじゅ）氏

一般社団法人あすびと福島代表理事

1953年、南相馬市小高区出身。2010年まで東京電力で新規事業の執行役員を務めた。2011年の原子力事故への責任と地元復興への思いから、人材育成拠点「南相馬ソーラー・アグリパーク（現あすびとパーク）」を2013年にオープン。小中学生向けには再生エネルギーやドローン・ロボット、水素カーなどをテーマとした体験学習、高校生には地域の課題解決や可能性の実現に向けたプロジェクト・ベースド・ラーニング、大学生には、ありたい社会・自分・仕事を内省する場づくりなど、福島の復興・創生を担う次世代人材の育成に邁進している。それらを全て無料で継続する一方、企業の社員研修で得る対価によって経済的持続性を確保している。

パネリスト

●石田 秀輝（いしだ ひでき）氏

地球村研究室代表・酔庵塾塾長・東北大学名誉教授・京都大学特任教授・星槎大学特任教授・(一社)サステナブル経営推進機構理事長

2004年(株)INAX（現LIXIL）取締役CTO（最高技術責任者）を経て東北大学大学院環境科学研究科教授、ものづくりとライフスタイルのパラダイムシフトに向けて国内外で多くの発信を続けている。特に、2004年からは、自然のすごさを賢く活かすあたらしいものづくり『ネイチャー・テクノロジー』を提唱、2014年から『心豊かな暮らし方』の上位概念である『間抜けの研究』を沖永良部島へ移住、開始した。

近著：「危機の時代こそ 心豊かに暮らしたい！」（KKロングセラーズ2021）ほか多数。

●早瀬 昇（はやせ のぼる）

社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長・同志社大学客員教授

1955年、大阪府出身。学生時代に交通遺児問題、地下鉄バリアフリー化問題などに関わる市民活動に次々に参加。78年に(福)大阪ボランティア協会に就職。91年より事務局長。09年に退職し、2019年から理事長に就任。2012年～18年まで日本NPOセンターの代表理事も務める。市民の主体的な「参加の力」が生み出すソーシャル・イノベーションの可能性と推進策を探り続けている。

著書に『「参加の力」が創る共生社会』（ミネルヴァ書房。2018）ほか多数。

進行

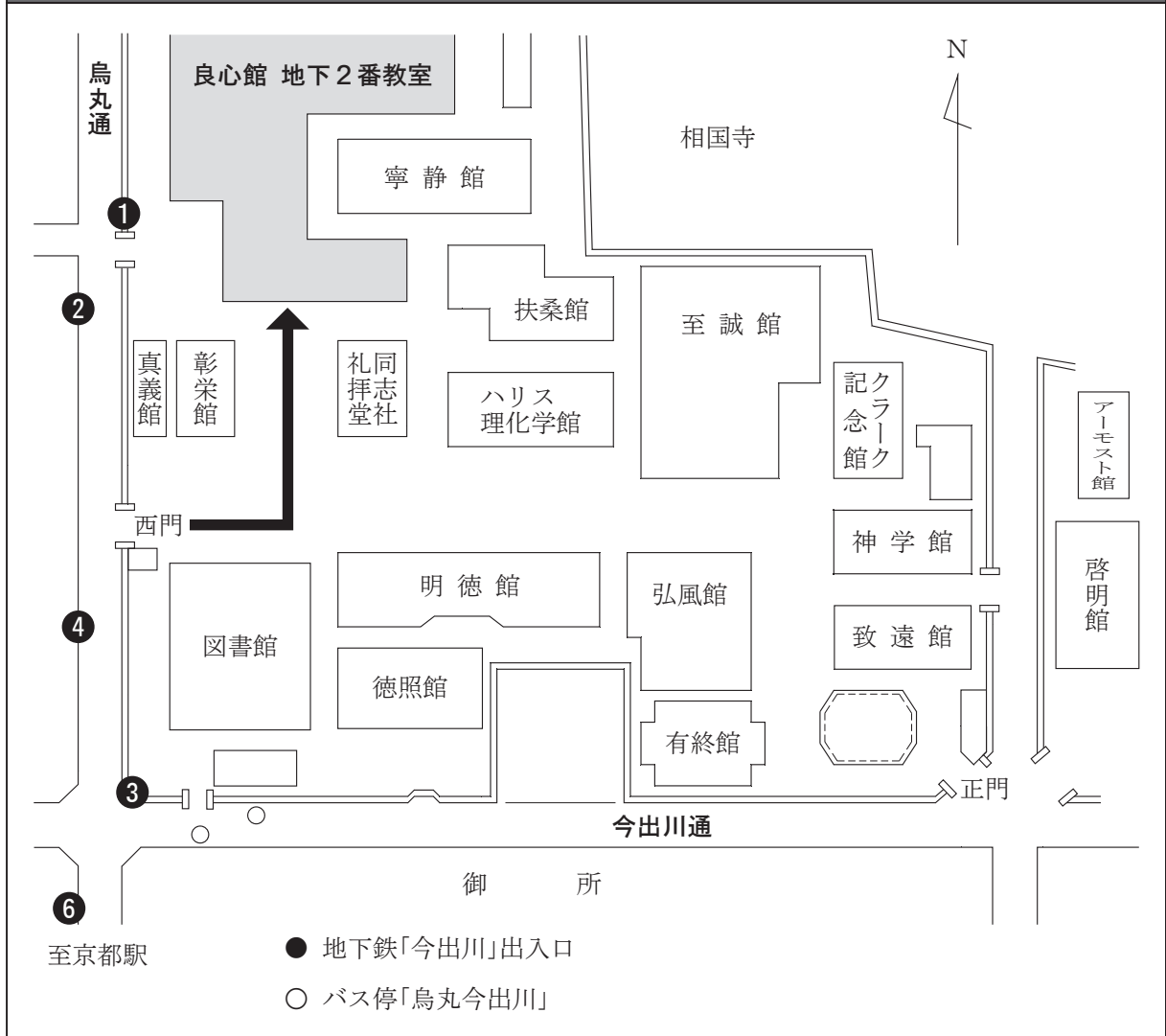
●服部 篤子（はっとり あつこ）

同志社大学政策学部教授・人文科学研究所兼任研究員

阪神淡路大震災を契機に、非営利組織の普及にむけた研究プロジェクト「総研大スコーププロジェクト」に参画。その後、2001年CAC社会起業家研究ネットワーク、2009年一般社団法人DSIAを設立し、社会起業家等人財育成に取り組む。主な編著に『新・公共経営論』、『未来をつくる企業内イノベーターたち』、『ソーシャル・イノベーション』など。日本ソーシャル・イノベーション学会理事、内閣府休眠預金等活用審議会委員などを兼務する。

*人文科学研究所第20期部門研究会第5研究は、社会の課題にむきあう市民社会の醸成を推進するソーシャル・イノベーション学を研究しています。その1つの重要なテーマとして、グリーン社会を市民がどうデザインしていくのか、そのためにどのような制度設計を行っていくかを探求しています。

同志社大学今出川キャンパス案内図



▼最寄駅 <京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅>

J R 「京都」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

京阪・叡電 「出町柳」駅より西へ徒歩15分、または市バス201号・203号で西へ約5分

近鉄 「竹田」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

阪急 「烏丸」駅から地下鉄烏丸線「国際会館」方面に乗換

会場へは公共交通機関をご利用ください

【駐車場はありませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください】